

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	千葉県	市町村名	松戸市	大学名	
派遣日	令和 4年 7月 8日 (金曜日) 13:00~16:00 (当日の流れ) 13:00 近田先生とオンライン接続確認、打ち合わせ 13:50 日本語指導研修会 開会式 14:00 第一部「外国人児童生徒等の現状と基本的な指導」講演 15:00 第二部「日本語指導が必要な児童生徒等への支援」講演 15:50 質疑応答 16:00 終了				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / <u>遠隔</u>				
派遣場所	松戸市民劇場とオンラインでつないで講演 (Zoom)				
アドバイザー氏名	目白大学人間学部児童教育学科専任講師 近田 由紀子先生				
相談者	松戸市教育委員会学校教育部学習指導課 日本語指導教員 (14名)、日本語指導支援スタッフ (36名)、 日本語指導協力者 (8名)				
相談内容	<p>①日本語指導教員、日本語指導支援スタッフ、日本語指導協力者に向けて 松戸市では、日本語指導に様々な立場の人が関わっている。外国人児童生徒の現状を踏まえ、それぞれの立場から、どのように目の前の子どもを見取り支援していけばよいか教えていただきたい。(例えば、子どもの文化適応や母語・母文化・アイデンティティ等)</p> <p>②「<u>にほんごルーム</u>」に携わる日本語指導教員・日本語指導支援スタッフが、<u>今知りたいことや困っていることについて</u></p> <p>(「<u>にほんごルーム</u>」とは、令和4年度から松戸市内12校でスタートし、「特別の教育課程」を踏まえた日本語指導を行う場である。)</p> <ul style="list-style-type: none">・来日したばかりで日本語が話せない児童に対して対応の仕方。(サバイバル日本語)・「日本語と教科の統合学習」をどう指導したらよいかわからない。・日本語プログラムをどう組み合わせたらよいか。・目標と評価について。・日本語レベルやルーツとなる国が違う場合のグループ学習の進め方。・児童の担任は、「取り出し」ではなく、「入り込み」での児童支援を希望することが				

	<p>多い。取り出されてしまうと、その時間の教科学習をどう補えばよいかかわからないからという理由。「にほんごルーム」としては、どう対応すればよいか。</p> <ul style="list-style-type: none">・「にほんごルーム」を、同じ学校の教職員に理解・協力してもらう方法
派遣者からの指導助言内容	<p>①外国人児童生徒等の現状と基本的な指導</p> <ul style="list-style-type: none">・公立学校等における就学と学習の状況について、令和3年度の公立学校における日本語指導が必要な児童生徒は10年間で約1.7倍となっている。・日本語指導が必要な高校生の中退率・進学率は改善されているものの、中退率は全高校生等より高く、進学率は全高校生等より低い。また、非正規就職率は全高校生等に比べ、非常に高くなっている。・教員の指導力向上に関する課題として、教員養成段階では外国人児童生徒等教育が教育課程に位置付けられていないこと、現職教員の研修には地域差がありノウハウが共有されていないことが挙げられる。・新学習指導要領総則では、日本語指導について明記された触れているので確認するとよい。・「特別の教育課程」は、教員免許を有する教員が指導し、校長が「特別の教育課程」を実施するか決定し、学校設置者に届出ることが定められている。・出身国の環境、家庭環境、地域・学校の環境等により、成長・発達の多様性が見られる。文化間移動をする年齢が大きく影響する。・日本語指導担当者や学級担任が一人で抱え込まず、関係者と連携することがポイントである。 <p>②日本語指導が必要な児童生徒等への支援</p> <ul style="list-style-type: none">・子どものよさ・強みに目を向け、スモールステップで支援していく。焦らない。・授業づくりは、盛り込んで教えすぎてしまうことがないように、子どもの経験、興味・関心等から内容を精選・焦点化する。・支援の際、ITの活用も有効である。(例えば、音読を録画する等)・5つの支援として、直接支援(理解支援、表現支援、記憶支援)と間接支援(自律支援、情意支援)がある。理解支援に力を入れがちだが、意欲をいかに高め自己肯定感を上げていくか間接支援が重要となってくる。・中学校の学習指導要領には、にほんごルームの先生だけでなく、通常の学級における指導にあたっての支援が書かれているので確認するとよい。・在籍学級と連携を取る方法の一つとして、入り込み指導をして児童生徒の困り感を把握し、在籍学級担任に伝えていくとよい。また、子どもの成長を記録し関係者間で情報を共有し、ツールを利用するのも有効である。・「日本語と教科の統合学習」について他校の実践例の紹介。・関係性を広げる学びを行う。日本語を発達させるためのプロセスにおいて、子ども同士の関係性を広げ、周囲の大人と交流する機会を増やす。・評価の観点と方法について、多面的な評価方法の具体例の紹介。・共通理解・連携・協力を促すためには、子ども達の実態を多角的に捉えるとともに、

(様式3)

	多方面から支援することができるよう、連携・協働することが大切である。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>今回の研修を受け、松戸市の日本語指導に関わる教員・スタッフと、日本語指導の現状を共有・把握することで、取り組むべきことの方向性が見えてきた。今後、今年度からスタートした「にほんごルーム」を中心に、松戸市の日本語指導の在り方について研修を重ねていきたい。</p> <p>《今後の研修予定》</p> <p>①松戸市内の12校に設置された「にほんごルーム」の中で、リーダー校として研究を進めている学校2校の見学や話し合いの場を設ける。(個別指導・グループ指導・特別の教育課程の授業参観等、テーマに応じて開催する。)</p> <p>②各学校で使用している教材や指導方法等の紹介、情報共有等(パソコンにて共通ページの開設)</p> <p>③全体研修会の開催(2月予定)</p>

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、[文部科学省ホームページ](#)で公開いたします。